

発行 ●新河岸川流域川づくり連絡会 新所沢事務所
住所 ●埼玉県所沢市弥生町2996-6 山ロビル1F TEL/FAX 042-994-3212
発行日 ●2001年(平成13年) 11月30日

VOL. 15

2001年 元気な活動 締めくくり 特集

- P1 新河岸川流域 活動マップ
- P2 秋のイベント報告 第2段
- P4-5 身近な川の一斉調査報告会 特集

新河岸川流域情報

- P6 柳瀬川流域水循環マスタープラン 中間報告
- P7 市民の広場—市民の活動レポート— エコシティ志木活動報告
新河岸川流域川づくり連絡会報告
- P8 イベントカレンダー
新所沢事務所通信

今回の『新河岸川流域紀行 歩く 見る 聞く』はお休みさせていただきます。



切絵 毛利行範

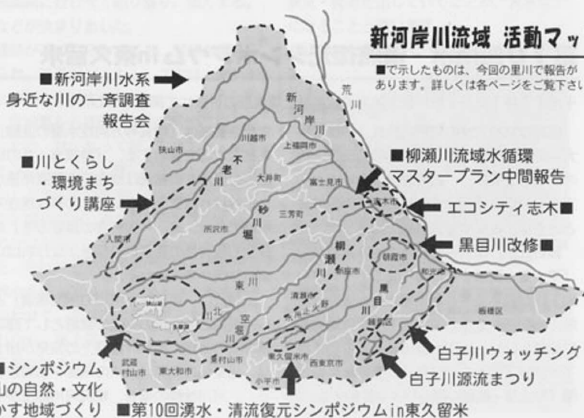
2001年も、やっぱり 元気な活動で締めくくり!

新河岸川流域では、様々な活動が各地で行われています。秋に開催されたシンポジウムや学習会の視点も一樣なものではありません。水質やまちづくり・地域づくり、湧水保全、改修工事についての継続的な関わり等、川を流域という視点で考えていくためには、実に多くの視点が必要なが分かります。柳瀬川流域水循環マスタープランの中間報告はその集大成ともいえます。

また、それぞれの地域や流域で行われている活動から、その場所が抱えている課題もうかがえます。広い流域も、身近な地域を見つめ考えることから始まります。そうした活動を積み重ね、流域とし情報交換や交流などでつないでいくことにより、流域全体が変わっていくはずですよ。

新河岸川流域 活動マップ

■で示したものは、今回の里川で報告があります。詳しくは各ページをご覧ください。



2001年 新河岸川水系 身近な川の一斉調査 報告会 特集

日時：平成13年11月24日(土) 午後13時~16時30分
会場：朝霞産業文化センター2F 主催：新河岸川流域水環境連絡会

プログラム

- 第1部 表題「学校と身近な川の一斉調査」
報告者：東村山市立第三中学校学部
自由学園(東久留米市)
志木市立宗岡中学校
報告「新河岸川流域の魚たち」
報告者：小林一己氏(新河岸川流域水環境連絡会事務局)
- 第2部 報告「2001年度の調査結果の特徴」
報告者：丹野忠弘氏(埼玉県立所沢北高校)
講演「下水処理水と河川環境」
講師：田中宏明氏(独立行政法人土木研究所)



写真：講師 田中宏明氏

講演：「下水処理水と河川環境」
講師：田中宏明氏(独立行政法人土木研究所 水循環研究グループ)

講演は、水環境と下水道についてお話頂きました。下水処理水と河川とがどのように関わり、今後どのように関わっていくかとしているのか、下水道の技術的な歴史などから現在の課題まで多岐に渡りました。下水処理水は、放流した先の河川環境を大きく決定付けるものです。下水道普及とともに処理水の水质改善が取り組まれています。処理水质は環境基準を達成するように計画されていますが、放流する河川の環境や処理水の利用方法など、目的や環境に応じた処理方法が行われています。日本はまだ一般的ではありませんが、高度処理の技術も向上しています。処理水质の向上に伴い、その有効利用(再利用)も図られています。

しかし、下水道が普及し、河川の水质が改善されても、水量の減少という問題があります。それは下水道の普及だけが原因ではなく、都市の水の流れ全体を考慮しなければならぬ問題です。また、処理水を河川に送水した場合でも、親水水としての場合は、安全な水质にするための消毒が施され、水生生物の数が少くなるなど、問題は容易ではありません。それでも、できるだけ生物と共に川へ親しめるように塩素消毒ではなく、オゾンによる消毒なども試みられています。今後、生物の多様性を守りつつ、人間にも安全な水へ変換する技術の改良が、どの程度達成できるのかはまだ分かりませんが、その研究は進められています。

また、汚れた下水をきれいにするという問題の解決だけが、下水道の技術的な進化のだろうか？排出される汚れた水を浄化するだけでなく、汚れた水の排出の仕方を考えることも、今後必要なのではないでしょうか？という問い掛けも会場からありました。先進的な技術を求めるだけでなく、生活者である私たち一人一人が、下水について考え、工夫する必要性があることも確認されました。

第1部 「学校と身近な川の一斉調査」

今年も「身近な川の一斉調査 報告会」が開かれました。年々報告会の内容も充実し、盛りだくさんな内容となりました。まず第1部では、調査に関わった学校の生徒さんから、活動の報告や自由な感想が発表されました。専門的な学習ではなく、継続的に川へ関わる楽しさが伝わってきました。東村山市立第三中学校科部は、4年間の活動で様々なことが調べられています。地域で活動されている方々との出会いなどをきっかけに、興味や活動が広がっています。作成された「NO.の汚染マップ」は大作でした。

自由学園では、校内を流れる立野川の調査が毎日行われています。それ以外にも湧流や農家の井戸を使った地下水位調査など、興味と調査は広がっています。「川は下流でいくら努力しても、上流で汚れてしまうとどうにもならない」という農家の言葉も、しっかり受け止めた取組みは、頼もしい限りです。志木市立宗岡中学校は、エコシティ志木の調査に参加して活動しています。科学部で行った調査のまとめは、優秀賞を受賞したそうです。(賞の詳細内容は、残念ながら不明でした)

来年度より導入される総合的な学習の時間の一環として、身近な川の一斉調査へ参加してくれる学校が、今後増えていくことも期待されています。

第2部 「2001年度の調査結果の特徴」

- ① 2001年度調査のまとめ
- ② 各河川のデータが充実してきた
- ③ 99年と01年の共通性が認められた
- ④ 高濃度サンプルが多かった
- ⑤ 特徴ある流入水が確認できた
- ⑥ 流域ごとの環境の違いが明確になった

新河岸川流域全体として集められた水质調査のデータがどのように活用できるのか、具体的な説明もありました。水质調査のデータ分布図を見ると、他の分布から明らかに外れている特異な場所の存在が確かめられます。なぜ、その場所だけ数値に変化があるのか、実際にその場所を訪れ、原因を考えることにもつながります。データのまとめは、新河岸川流域全体として、水質が良くなっているかどうかを確認するとともに、流域全体のデータを基盤に、各支流の特徴や特定場所の環境を読み解く作業にも、役立てることができるはずです。また、川へ流れ込む4つの水「①湧水 ②生活排水 ③下水処理水 ④廃棄物最終処分地近くからの水」の流入により、変化が著しくなるとの分析もありました。

身近な川の一斉調査は、継続的な取り組みにより、大きな成果が見え始めており、今後の活動にも期待が寄せられています。

写真 いずれも第一部の発表の様子



新河岸川流域の魚類調査が進められています。今年の調査報告マップには「新河岸川流域さかなマップ」が掲載されています。次ページをご覧ください。



新河岸川流域さかなマップ(ミニ編集版)

新河岸川水系魚類調査2001年

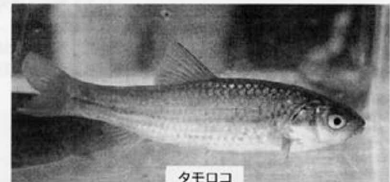
魚種	調査期間 2001年1月~11月														
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	
アユ															
サケ(稚魚)															
カワムツ(8種)															
オイカワ(ヤマ)															
ウグイ(ヤ)															
マユウグイ															
アブラハヤ															
タモロコ															
モツゴ(クチボソ)															
カマツカ															
コイ															
ニゴイ															
キンブナ															
ギンブナ(ヤ)															
フナ(ヤ)															
フナ															
スズキ(ヤ)															
ニシキ(ヤ)															
オオクチバス															
コクチバス															
ブルーギル															
メダカ(ヤ)															
ヒメダカ															
カサゴ															
クマノリ															
ドジョウ															
カラドジョウ															
シマドジョウ															
ホトドジョウ															
ナマズ															
ボナズ															
ミナ															
ミナ															
キンノボリ															
ウケノリ(群)															
特異魚の種															
メダカ															
キンギョ															
魚類合計	7	11	7	13	2	5	10	4	2	0	4	6	5	6	7
アブラハヤ															
オオクチバス															
スズキ															
ヤゴ															
その他															



タナゴ



モツゴ(クチボソ)



タモロコ



アブラハヤ



オイカワ(ヤマメ)

- ① 井筒公園/練馬区
- ② 赤池橋/和光市
- ③ 神宝大橋/東久留米市 新空市
- ④ 新座・大橋/新座市
- ⑤ 東林橋/朝霞市
- ⑥ 北山公園前/東村山市
- ⑦ 金山公園前/清瀬市
- ⑧ 志木中学校前/志木市
- ⑨ 宮寺藤沢地区/入間市
- ⑩ 坂下橋/川越市
- ⑪ 田谷橋/川越市
- ⑫ 旭橋/川越市
- ⑬ 日光寺/上福岡市
- ⑭ 富士下橋/志木市



魚の写真などは「新河岸川流域さかなマップ」より転載しています。オリジナルのマップは、A2サイズのカラー刷りですので、魚の写真も見やすくなっています。「新河岸川流域さかなマップ」は無料で配付しておりますので、お気軽にお問合せ下さい。数に限りがございます。お早めにご連絡下さい。2001年度の調査報告書(300円)も販売しておりますので、併せてご利用下さい。

お問合せ：新所沢事務所 TEL/FAX 042-984-3212



新河岸川流域 秋のイベント報告

第2回

みんなでつくる流域 みんなで支える流域

掲載されている活動については、新河岸川流域事務所までお問い合わせ下さい。
TEL/FAX 042-994-3212

川とくらし・環境まちづくり講座 主催：不老川流域川づくり市民の会 共催：狭山市入間公民館

ファシリテーターに森良氏を迎え、11月8、15、22、29日の4回にわたり開催しました。参加人員 16-20人でした。

第1回「川と暮し 今昔物語」



写真：「水道が来たときはうれしくて涙が出た」 芝水地帯入曾の老嬢

第2回「生き物たちと川」



写真：「尖った削岩の布団が魚たちの寝床です」布田菴の環境で

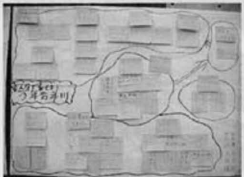
第3回「不老川リバーウォッチング」



写真：「私はこの曲線が好き」捨てたものじゃないよ 不老川

第4回最終回

川を生かそう 不老川再生プランづくり



写真：「Brain storming」鳥づくりで意見の方向付け

右記に関する詳しいお問合せは、不老川流域川づくり市民の会へお願いします。
代表 相馬 氏：042-965-1741

不老川流域川づくり市民の会からのお知らせ

平成13年11月27日 不老川流域川づくり市民の会は埼玉県庁で土屋知事宛に不老川に関し大要次のような公開質問状を提出しました。

1. 不老川への下水処理水環境について
イ. 放流目標値 BOD 5ppm/リに対し 19-32ppmの処理水を放流している事について原因を説明してください
ロ. 何時までにどの様な改善策を実施しますか
ハ. 改善されるまでは どの様に対応されますか
2. 久保川は既に本川不老川より綺麗になっていますが、今後久保川浄化施設の稼働はどのようにされますか
3. 不老川本川浄化施設は上流の瑞穂町下水道普及によると思われる水量の著しい減少に伴い効果が疑問視されます 今後の対応は如何されますか
4. 支川林川の浄化施設は未完成となり、用地取得等行っているものと聞きますが上記 項2、3の状況を踏まえ再検討の考えはありませんか
以上について明快でわかりやすい書面での回答を平成14年1月末日までに下記、住所宛送付いただきたく、お願いいたします。(以下略)

第10回湧水・清流復元シンポジウムin東久留米

平成13年12月1日、東久留米消費者展と環境展の併設にて開催しました。

講師は奈良大学の細野善純氏、前橋工科大学の土屋十國氏と法政大学の山田啓一氏の3名を迎えて、「武蔵野台地の地下水・湧水」のシンポジウムは70名近くの参加者とともに、市民学習会形式で始まった。細野氏からは武蔵野台地の地下水位が「降水量と関係する、30年間のデータから地下水が最も上昇した地下水と下降した地下水図面」を示して、地下水は短期的に変動しない、地下水の等高線に沿って地下水が流下するのは無く、その地点の地層「粘土層・礫層の厚みにより変動する」、

また湧養域は「均質等方向性水層の流域」を掘むことで判明する。「善福池・井の頭池等の湧水」の枯渇は現在の年間降雨量が2倍無ければ復元しない、この事は現在不可能であり、又、「国分寺の真塗の池」の保全も後背地の湧養域の保全がなければいずれ枯渇が予測される。土屋氏は「都市中小河川の水文環境」とし、野川と落合川の保全の課題として建築基準法の改定により「崖線上の開発が始まり、湧養域の開発は湧水の水源地を枯渇させる」。河川改修の場合、現況河川線から

逸脱した河川改修は河川の湧水の自然流出を阻害する。山田氏は「湧水の保全」は、市民と行政が「現状の理解・把握・監視」と、汚濁負荷源の削除「特にノンポイント汚染の対策」と「流域下水道管が隣層へ影響し地下水・湧水が流失すること」等が認識すべく課題とされた。今回のシンポジウム・学習会は内容が濃く、広く知るためには一度ではなく継続して行きたい。(記：黒目川流域川づくり懇談会 菅谷輝美氏)

シンポジウム 報告

「里山の自然・文化・産業を生かす地域づくり」

主催：(財)トトロのふるさと財団

トトロのふるさと財団では、1999年度より「里山におけるエコミュージアムの実現に関する調査研究」という事業に取り組んでいます。昨年度の2年間で狭山丘陵をフィールドとして、自然、文化、産業の調査をし、今年度は地域の市民団体や住民とともに、地域づくりに向けた具体的な実践活動をワークショップとして、「緑の回廊を歩いて探そう」「狭山三十七薬師を探そう」「砂川のせせらぎを取り戻そう」「箱根ヶ崎から六道山公園までの案内図を作ろう」「環境教育を考えよう」「雑木林と畑の関わりを考えよう」「みんなで雑木林を育てよう」の7つ行ないました。

11月25日に、福島県鮫川村の交流施設所長鈴木治勇さんをお迎えしてシンポジウム『里山の自然・文化・産業を生かす地域づくり』を開催しました。鈴木さんの講演では、これからの地域づくりには農林業との

関わりなしには展望は開けないこと、人材の育成が大事な鍵を握っていることを伺いました。午後は、小学校の子供たちも参加して、ワークショップの成果を発表しました。パネルディスカッションでは、狭山丘陵の自然だけでなく、文化・産業を取り込んだ活動が重要であり、行政の枠を超えた市民のネットワークの必要性が話され、100人からの来場者とパネリストみんなで確認しました。写真：会場風景 (トトロのふるさと財団 早川直美氏)



黒目川改修について、市民からの報告

現在、進められている黒目川の改修(朝霞市)の動向について報告してもらいました。

新河岸川合流点からの黒目川の改修は、'99春までに、東上線鉄橋までの2.7kmが完了しました。もともと掘り込み河川であったものが、堤防は人の背丈よりも高く、一律に1:2勾配となり、かごマットに土をかぶせた護岸となっており、黒目川は、人々からすっかり遠くなくなりました。'99秋からの東上線上部の改修工事に対して地元の人々が「黒目川に親しむ会」を結成し、署名を集めて県に要望書を提出。当時の建設者にも働きかけて、計画の見直しが決まりました。

見直しと言っても、本当の意味での見直しではありません。本来なら、様々な資料を精査して、計画の必要性やそれに替わる方法についても議論すべきですが、県と朝霞市、関係町会長、学校長、議員、市民団体代表などで構成された検討委員会は、毎秒120mの水を流すことを前提として進められました。

市民側は3つの会の代表が委員として参加しましたが、市民側の意見をまとめる余裕がないまま委員会に臨み、それぞれが自分の関心の範囲内で意見を述べている、作戦的にはあまりうまいとは言えないものになってしまいました。

検討委員会で、築堤によって川幅が狭まり高水位がより高くなることを防ぐとともに、内水による被害を和らげるために、堤防が必要に高くせず、その代わりに河床を掘り下げる。堤防上の根の木は残し、木の後ろ側に3.5m以上の余裕がある所では、木の後ろ側を3m幅の管理用道路とする。高水敷のある所は、そのままの形で、河床掘削に合わせて削り取り、低くする。などが決まりました。堤防が高くならなくても、河床が掘り下げられ、法面がどこも1:2では、高い築堤と変わりありません。'01年初夏から堤防の低い部分の工事がおこなわれ、秋になって終了しました。今そこを通る人たちは一様に「前よりも怖くなった」と言っています。確かに堤防が少し高くなりましたが、それだけでなく、1:2ののっぴりした勾配と、それがそのまま川に落ち込む様子が、恐怖心を呼んでいるようです。今後の工事に合わせて、さらに河床が低くなります。これから、東上線と、すぐ上流の東林橋間の工事が始まります。

1月になって市民側から申し入れた7項目のうち、大勢に影響がない細部については了承してもらえましたが、法面勾配や河床についてはは否否されました。大勢の人に親しまれている黒目川はこれから大きく変貌しようとしています。市民参加型(参画にはできなかった)の川づくりが「あれでは」と言われないためにも、これからの川づくりの一つの例とするためにも、流域の大勢の人々が注目し、意見・提案を出していくことが、大きな力になることと思います。(記：黒目川流域川づくり懇談会 藤井由美氏)



写真：夏に行われる黒目川の川遊びの様子

「里山しるべ」掲載情報を募集しています!

流域や地域での活動報告をお寄せ下さい。
〒369-0043 所沢市弥生町2996-615
新河岸川流域川づくり連絡会 新所沢事務所
TEL/FAX 042-994-3212
E-mail sirasas@westa.ocn.ne.jp

新河岸川流域 行政からのお知らせ

柳瀬川流域水循環マスタープラン 中間取りまとめの概要について

柳瀬川流域水循環マスタープラン 中間とりまとめの公開について

国土交通省 関東地方整備局
荒川下流工事事務所 調査課
お問合: TEL 03-3902-3220
FAX 03-3902-2346

○ 柳瀬川流域における水に係わる諸問題を解決し、より健全な水循環像を創出することで「望ましい流域像」の実現を目指す柳瀬川流域水循環マスタープランの中間とりまとめを作成し、公開することとしました。

○ 水循環マスタープランとは、水に係わる総合的な整備・保全・管理を目指すため、河川環境のみならず、都市環境などの地域特性を踏まえた水循環の健全化に関する総合的な計画です。新河岸川の一次支川である柳瀬川流域を取り上げ、平成12年2月より水循環マスタープラン策定の検討を行っており、平成13年度中に策定することを目指しています。

○ この度、プランの計画理念・基本方針が定まり、基本方針に沿って抽出される対策案の整理を行いました。これまでの検討成果を取りまとめ、柳瀬川流域水循環マスタープランの現時点での考え方を多くの方々に知っていただくことを目的に中間とりまとめを作成しました。さらに多くの皆様のご意見を取り入れ、適切にプランに反映させていこうと考えていますので、ご意見を是非お寄せ下さい。

○ 中間とりまとめの記載内容は以下の通りです。

1. はじめに
 - 1.1 水循環マスタープランとは
 - 1.2 柳瀬川流域水循環マスタープラン検討の経緯
 - 1.3 柳瀬川流域水循環マスタープランの検討体制
 - 1.4 中間とりまとめの位置づけ
2. 柳瀬川流域のあらまし
 - 2.1 流域諸元
 - 2.2 地形・地質
 - 2.3 社会条件
3. 柳瀬川流域水循環マスタープランの考え方
 - 3.1 柳瀬川流域水循環マスタープランの計画理念・基本方針の体系
 - 3.2 計画理念：人と水と緑がつながりあった魅力ある流域づくり
 - 3.3 基本方針：都市化によって損なわれた流域の水循環システムの再生
 - 3.4 基本方針：将来に引き継ぐ治水・利水・環境のバランスがとれた流域づくりへの取り組み
 - 3.5 基本方針：人と人が水を通してつながりあう社会を目指して
4. 柳瀬川流域水循環マスタープランの対策メニュー（案）
 - 4.1 対策メニューの抽出
 - 4.2 「将来に引き継ぐ治水・利水・環境のバランスがとれた流域づくりへの取り組み」の対策メニュー
 - 4.3 「人と人がつながりあう社会を目指して」の基本的な取り組み
 - 4.4 対策・施策の役割分担
 - 4.5 対策の実施・推進における問題点・課題
5. 今後の取り組み
6. 参考資料
 - 6.1 柳瀬川流域の健全な水循環の回復・保全のために市民が出来る8つの行動の提案
 - 6.2 計画理念・基本方針の検討過程
 - 6.3 市民から寄せられた意見

○ 柳瀬川流域水循環マスタープランの策定までには、さらに検討を進める必要があります。今後の検討項目は、以下の通りです。

- ・計画目標・目標値の検討
- ・目標達成のための対策代替案と対策の優先順位
- ・プランの推進方策・フォローアップ

○ 中間とりまとめの公開は以下のように行います。

- ・柳瀬川流域水循環マスタープランのホームページでの公開（PDFファイル）
<http://www.ar.a.or.jp/arage/yanase/index.html>



市民の広場 - 市民の活動レポート -

エコシティ志木 活動報告

「エコシティ志木」は、志木市の環境を少しでもよくしていくために、1995年10月に発足しました。4つの部会を中心に活動し、1998年に「市民がつくる志木市の環境プラン」を提案し、現在はプランの実践活動に入っています。本会の4つの部会は、水と緑、ごみとエネルギー、保健・福祉、まちづくりですが、水と緑部会の最近の活動を紹介します。

柳瀬川ウオッチング（野鳥調査）は、1997年から始まり10月13日をもって11回目となりました。調査は1999年に小冊子「柳瀬川散歩」と「観察シート」にまとめて一区切りつけ、さらに回数を重ねたものです。ほ

ぼ同じ区間で長期にわたっての地道な記録をとった調査は、なかなかないものと考えます。（原則第2土曜）

その他に、水辺の生き物しらべ隊（原則第4土曜日の魚類等調査）、ツバメと春の観察会、プールのヤゴ救出作戦、川まつり（写真展）、トンボとチョウを見る会、鳴く虫を聞く会、冬鳥の観察会、川を歩く会、斜面林の手入れなどなど。

（記：エコシティ志木 飯塚伸夫氏）



写真：夏に行われた川まつりの様子です。魚のクイズに、子供たちも楽しそう！

エコシティ志木では、楽しいホームページも開設されています。生き物の情報や、NPOに向けた取組みなど盛りだくさんの内容ですので、ぜひご覧ください。
URL <http://www.d1.dion.ne.jp/~iizukano/>

新河岸川流域川づくり連絡会 報告

平成13年度 第7回

新河岸川流域川づくり連絡会とは？

国土交通省荒川下流工事事務所と市民の方々の情報交換の場として定期的に開催しています。参加を希望される方々、詳しく内容につきましては、荒川下流工事事務所または新所沢事務所へお問い合わせ下さい。

（開催場所）新所沢事務所 本紙P8参照
（お問合せ）新所沢事務所 または、
新河岸川流域川づくり連絡会事務局
国土交通省 荒川下流工事事務所 調査課
TEL 03-3902-3220 FAX 03-3902-2346

第7回 平成13年 11月12日

(1)「学習会」と「新河岸川流域川づくりフォーラム」の位置づけについて

・「学習会」は川づくり事例などを基に、より専門的な内容を学習する場とした。
・「新河岸川流域川づくりフォーラム」は、川づくりに関わっている住民だけでなく、より多くの住民と一緒に学び、活動を展開できる契機とした。

(2)学習会について

・行政と市民のパートナーシップの形成、あるいは地域と学校が連携した総合学習を展開する上で協働のプロセス知ること大切である。黒目川の事例から実際に手探り状態から合意形成に至るまでの問題やその解決策等について、学習会で学びたい。
・講師を依頼する予定の島谷氏の日程が合わない場合には、黒目川の河川事業に関わった新河岸川総合治水事務所長または市民に講師を依頼する。
・できるだけ早い時期に学習会を開催して欲しい。

(3)新河岸川流域川づくりフォーラムについて

・メインテーマは「住民と行政が協働できる川づくり」とする。
・水循環マスタープランをテーマとし、柳瀬川流域水循環マスタープランと多摩川流域水循環マスタープランの2事例報告を行うことも面白い。

(4)新河岸川川づくり連絡会について

・柳瀬川水循環マスタープラン、新河岸川流域の総合治水計画等、流域の情報を提供して欲しい。

第8回の連絡会は、12月17日（月）に行われる予定です。また、その内容は次号16号の「里川しんぶん」でお伝えします。第9回以降の予定など、詳しくは、事務局または新所沢事務所へお問い合わせ下さい。

第1回～第7回の議事概要は、ホームページにも掲載されています。あわせてご覧ください。
<http://www5.ocn.ne.jp/~singasi/index.html>

Information

イベントカレンダー



イベントに関するお問い合わせは
 新河岸川流域 新所沢事務所 TEL/FAX 042-994-3212
 変更も考えられますので、事前にお問い合わせ下さい。

エコシティ志木 活動予定表

◆斜面林の手入れとお楽しみ会

日時：1月27日(日) 雨天の場合2月3日(日) 午前9時
 集合：館第3児童公園
 内容：幸町2丁目斜面林の手入れ、豚汁など
 持ち物：軍手、鎌などの用具(ある人)、お碗、箸
 参加費：200円
 共催：生態系保護協会志木支部、志木おやこ劇場
 問合せ：048-471-1338(天田眞)

◆柳瀬川ウォッチング(野鳥調査)

日時：12月8日(土) 1月12日(土)
 集合：午前9時にクラブ中野前の柳瀬川土手(雨天中止)
 共催：生態系保護協会志木支部
 問合せ：070-6114-0905(飯塚)

◆水辺の生き物しらべ隊=柳瀬川・出前水族館

日時：12月22日(土) 1月26日(土) 9~11時
 集合：志木中学校前の柳瀬川土手(雨天中止)
 共催：生態系保護協会志木支部
 問合せ：070-6114-0905(飯塚)

第4回 里山ウォーク

日時：1月12日(土) 午前11時~午後3時(雨天順延)
 集合：東村山駅立川行きバス停10時
 (横田バス停 10:40頃 歴史民俗資料館 10:50頃)
 参加費：200円(交通費 350円)
 持ち物：雨具、弁当
 問合せ：北川かっぱの会 TEL 042-391-2365
 E-mail: kapa@abeam.ocn.ne.jp
 URL: http://www6.ocn.ne.jp/~kapa/

「里川しんぶん」掲載情報を大募集します!

みなさまからの各流域や地域での活動報告等を募集しています。身近な情報などをはがき、お手紙、FAXまたはEメールで下記までお寄せ下さい。お待ちしております。新河岸川流域でのイベント情報を募集しています。フィールドワークや学習会などの情報もご連絡下さい。

〒359-0043 所沢市弥生町2996-61F
 新河岸川流域川づくり連絡会 新所沢事務所
 TEL/FAX 042-994-3212
 E-mail singasi@vesta.ocn.ne.jp

新所沢事務所通信

水質調査を行う器具を整備致しました。

水の透明度を計測する「クリーンメジャー」と、水質を測定するバックテスト試薬、伝導度計があります。環境学習や総合的な学習での取組みでこれらの器具をご使用になる場合は、お問い合わせ下さい。

● 開館時間

月・水・金曜日 午後1時~午後5時
 土・日曜日・祝日 午前10時~午後5時
 火・木曜日 休館
 年末年始のお休み 12月25日~1月6日

ご使用になる場合は、開館時間の変更も可能です。ご利用の方は新所沢事務所までご連絡下さい。TEL/FAX 042-994-3212

● 案内地図



● 事務局から ●

今年も残すところわずかとなってまいりました。新河岸川流域では、年々市民活動が各地で活発に行われるようになってきているようです。今年も、新しい活動が幾つも生まれました。来年は、更なる飛躍の年であることを心から祈って。みなさまも、良いお年をお迎え下さいませ。

